

1 むらづくりの主体

- (1) 名称 みたかやこめ
三田ヶ谷米クラブ
- (2) 所在地 さいたまけんはにゅうしみたかや
埼玉県羽生市三田ヶ谷
- (3) 地区の規模 大字単位の集団等
- (4) 組織の性格 機能的な集団等
- (5) 代表者の氏名、役職及び住所
- 氏名 はやみず かずお
速水 和生
- 役職 会長
- 住所 さいたまけんはにゅうしみたかや
埼玉県羽生市三田ヶ谷 1 5 6 9 - 1

2 地区の概要

総人口	農(林、漁)業 就業人口	総世帯数	総土地面積	耕地	採草放牧地	山林
2,824人	712人	768戸	756ha	377ha	0ha	0ha
農家戸数	専業農家	第 種兼業農家	第 種兼業農家	主業農家	準主業農家	副業的農家
334戸	36戸	36戸	209戸	37戸	56戸	188戸
地域指定状況			農業地域類型区分			
・ 農業振興地域(昭和48年)			市町村		当該地区	
			平地農業地域		平地農業地域	

注：専業農家・主業農家等は、販売農家の数値。農家戸数は、総農家の数値。

3 むらづくりの背景・動機

羽生市は、埼玉県の北東部で都心から60km圏に位置し、耕地面積2,970haのうち、田が2,780haを占める平坦水田地域であり、米麦作をはじめ、都市近郊の立地条件を活かした施設園芸と企業的な畜産経営が展開されている。その中で三田ヶ谷地区は、主穀単一および主穀＋施設野菜の複合経営が多く、主穀はコシヒカリを中心にした水稲の早期栽培と、生産調整に対応した小麦の作付けが多い。

地域から水田の担い手が求められていたことを受け、昭和46年に三田ヶ谷三区機械利用組合（7名） 続いて昭和48年に二区と一区が共同で機械利用組合を設立（9名）し、平成4年には、二区組合から担い手2人が独立して一区機械利用組合を設立した。その後、大型作業機械を導入しながら規模拡大を図り、地域での水田営農形態を形成していった。

平成15年3月、「顔の見える米づくり」と「安全・安心な米の供給」を目指して、一・二・三区機械利用組合は三田ヶ谷米クラブを設立した。さらにこの年、埼玉県育成の減農薬・減化学肥料栽培に好適な水稲品種「彩のかがやき」の栽培を開始し、生協への供給を図っている。

また、消費者交流を積極的に進めたいと考え、米に関する交流の他、コスモスフェスティバルにおいて、コスモス工房、地元の手打ちうどん愛好会「千代田うどん会」等と協力し、地域の伝統食を実際に食べてもらうなどして、三田ヶ谷農業の一層のPRに努めている。

さらには景観美化のため、平成13年にオープンした農林公園「キヤッセ羽生」内の花の植込みや、体験農場の管理・運営についても三田ヶ谷米クラブが率先して実施している。

4 むらづくりの内容及び成果等

(1)地域の主穀作の担い手として活躍

昭和46～48年にかけて、三田ヶ谷三区機械利用組合、同二区機械利用組合、谷ヶ浦機械利用組合が発足した。平成4年には二区から2名が独立して一区機械利用組合を設立した。

これら三田ヶ谷地区3組合は、地域の米麦作機械作業の共同化と作業受託を目的とし、地域の主穀作の担い手として活躍している。

【 成果等 】

耕作面積：約150ha（水稲刈取・乾燥調製作業ベース）

(2)水田の高度利用による遊休農地解消

平成3年に小麦の跡作にコスモスを60a栽培したところ、大変好評だったことから、翌年は周辺ほ場の地権者も活動に加わり、栽培面積を2haに拡大した。その後、水田転作の強化に対応して、三田ヶ谷地区では、地域の農業者との話し合いにより生産調整水田を団地化し、コスモスの後に小麦を作付けることで水田の高度利用を図っている。

栽培管理は三田ヶ谷米クラブ員が中心となった地権者で構成される「三田ヶ谷景観整備促進クラブ」が行っている。



コスモス畑

【 成果等 】

コスモス圃場：4.4ha（平成15年）

(3)コスモスフェスティバルでの市民との交流

平成4年から、コスモスの開花期に合わせて会員独自でコスモス祭りを開催し、地域の物産を販売するだけでなく、来場した市民に対して、三田ヶ谷地区の農業PRを行っている。

平成7年からは活動を広げ、「コスモスフェスティバル」と称して、地場農産物の直売やPRを中心に、子豚のレース、写真コンテストなど趣向を凝らして来場者を迎えている。

平成14年からは、県営公園と羽生市三田ヶ谷農林公園「キヤッセ羽生」が共催するイベント「わくわく公園まつり」が同時開催されるようになり、益々盛況となっている。



コスモスフェスティバル

【 成果等 】

コスモスフェスティバル

・実施回数：12回

・来場者：1.5万人（平成7年） 4万人（平成15年）

(4)地場産農産物の直売と加工販売による地産地消活動の展開

コスモス祭りで直売を行っていた三田ヶ谷米クラブ員など地区の生産者が、平成9年に「三田ヶ谷産直部会」を設立し、県営公園で月1回の直売を始める。現在は「羽生の里農業物産館・農産物直売部会」に形を変え、「キヤッセ羽生」の直売所で活動中である。

また、「三田ヶ谷機械利用組合女性部」が中心となり、平成12年に「コスモス工房」を設立。地場の農産物を活かし、まんじゅう、漬物、味噌などの加工品の研究、新商品の開発に取り組んでおり、女性起業化の先駆けとして活発に活動している。



コスモス工房の活動

【 成果等 】

平成15年度実績

- ・農産物直売部会
 - ・販売実績：2,600万円
 - ・「キヤッセ羽生」内レストランでの地場産食材利用品目数：15品目
- ・コスモス工房
 - ・まんじゅう販売量：約7万個
 - ・宝蔵寺味噌（地場産米・大豆使用）：約3t
 - ・きゅうりの漬物：約1t

(5)地域の未利用資源を活用した環境に優しい安全・安心な農産物の生産

平成12年に、三田ヶ谷米クラブの構成員13戸と市内養豚農家1戸で、「(農)アドバンス有機肥料利用組合」を設立し、畜糞等から堆肥を製造している。製造した堆肥は、水田へ散布するとともにコスモス畑にも利用している。

三田ヶ谷米クラブでは、平成15年から、埼玉県育成の病害虫抵抗性を持ち良食味米である新品種「彩のかがやき」を、アドバンス堆肥を利用して減農薬・減化学肥料で栽培しており、おいしく、低農薬で安心、そして低価格なことから好評となっている。

【 成果等 】

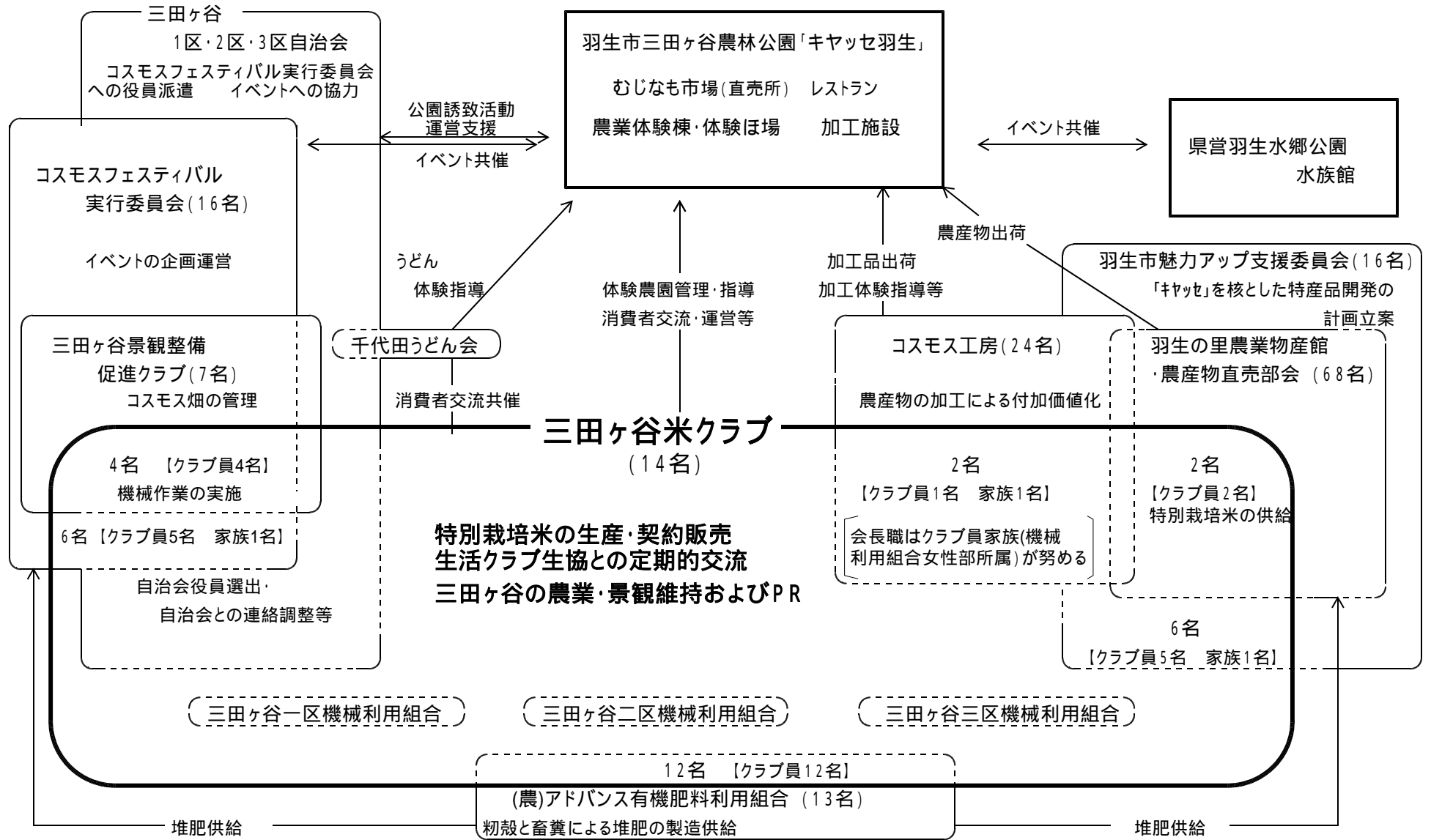
堆肥供給量：8ha、120t（平成15年）

マニュアルスプレッダーの導入で堆肥散布の作業を機械化し、生産者が堆肥を導入しやすくしている。

「彩のかがやき」栽培面積：8ha（平成15年） 20ha（平成16年）

- ・平成16年からは試験的に無農薬栽培にも取り組む：1.1ha

【むらづくり推進体制】



線の重なりは組織構成員の重複を示す

()内人数は組織の人数、()外は三田ヶ谷米クラブとの共通人員数を示す